

IHSS

Kinki Univ.

近畿大学

健康スポーツ教育センター研究紀要

第7巻 第1号

2008

〈追悼〉

中本道昭先生の逝去を悼む……………高島 規郎…………… 1

〈特集 運動・スポーツ指導とコミュニケーション〉

日本における体育の変遷とコミュニケーション……………松浪登久馬…………… 3

運動・スポーツ指導とコミュニケーション

— 課外スポーツ活動の場合 —……………禿 正信…………… 9

体育・スポーツの指導における非言語的コミュニケーション

— 共振する身体 —……………津田 忠雄…………… 15

〈総説〉

Psychological Factors Related to the Assessment and Treatment of
Chronic Lower Back Pain Patients: Review and Recommendations

……………Airi Naoi, Emma Grindley, and Alan Nasypany…………… 25

〈集録〉

平成18年度第2回公開講座「健康スポーツ教室」報告……………岡田 龍司…………… 37

FD活動報告……………佐川 和則…………… 41

ヨーロッパスポーツ心理学会大会報告……………直井 愛里…………… 44

第5回IJF国際柔道シンポジウムに参加して……………岡田 龍司…………… 45

第11回国際トキシコロジー学会大会報告……………熊本 和正…………… 47

世界卓球選手権ザグレブ大会報告……………高島 規郎…………… 48

平成19年度大学体育指導者中央研修会報告……………熊本 和正、岡田 龍司、松浪登久馬…………… 51

(社)全国大学体育連合近畿支部シンポジウム報告……………熊本 和正…………… 54

近畿大学公開講座2007アンチエイジングセンター開設記念

特別講座講演要旨……………佐川 和則…………… 55

健康スポーツ教育センター活動報告(2007年1月～12月)…………… 57

〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程…………… 59

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規…………… 60

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規…………… 60

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規…………… 61

近畿大学健康スポーツ教育センター

近畿大学
健康スポーツ教育センター研究紀要
第7巻 第1号

2008

近畿大学健康スポーツ教育センター

目 次

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 第7巻 第1号 2008

〈追悼〉

中本道昭先生の逝去を悼む	高島 規郎	1
--------------	-------	---

〈特集 運動・スポーツ指導とコミュニケーション〉

日本における体育の変遷とコミュニケーション	松浪登久馬	3
運動・スポーツ指導とコミュニケーション		
- 課外スポーツ活動の場合 -	禿 正信	9
体育・スポーツの指導における非言語的コミュニケーション		
- 共振する身体 -	津田 忠雄	15

〈総説〉

Psychological Factors Related to the Assessment and Treatment of Chronic Lower Back Pain Patients: Review and Recommendations		
Airi Naoi, Emma Grindley and Alan Nasypany		25

〈集録〉

平成 18 年度第 2 回公開講座「健康スポーツ教室」報告	岡田 龍司	37
FD 活動報告	佐川 和則	41
ヨーロッパスポーツ心理学会大会報告	直井 愛里	44
第 5 回 IJF 国際柔道シンポジウムに参加して	岡田 龍司	45
第 11 回国際トキシコロジー学会大会報告	熊本 和正	47
世界卓球選手権ザグレブ大会報告	高島 規郎	48
平成 19 年度大学体育指導者中央研修会報告		
熊本 和正、岡田 龍司、松浪登久馬		51
(社) 全国大学体育連合近畿支部シンポジウム報告	熊本 和正	54
近畿大学公開講座 2007 アンチエイジングセンター開設記念特別講座講演要旨		
佐川 和則		55
健康スポーツ教育センター活動報告 (2007 年 1 月～12 月)		57

〈その他〉

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程		59
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規		60
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規		60
近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規		61

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程

1. 本誌に寄稿できるのは近畿大学健康スポーツ教育センター専任教員に限る。但し、編集委員会が必要と認めた場合は専任教員以外にも寄稿を依頼することができる。
2. 寄稿内容は、体育学研究領域における総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起、その他、とし、完結した未発表のものに限る。
3. 原稿掲載の時期は、編集委員会において決定する。
4. 本誌に掲載された原稿は原則として返却しない。
5. 原稿は A4 版 400 字詰横書き原稿用紙にワープロまたはインク書きとし、本文はひらがな現代かなづかいとする。外国語をかな書きする場合はカタカナとする。
6. 原稿は原則として研究・教育上の問題提起などは図表を含めて上記原稿用紙 20 枚以内とし、総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告は 50 枚以内とする。
7. 図・表・原稿は必ず、A4 版以内の大きさとし、直接印刷原稿のとれるよう黒インクによりトレースするか、数表文字はタイプ打ち、または活字を使用すること。写真は白黒写とし、方眼紙は薄藍色のものを使用する。
8. 図・表・写真にはそれぞれ通し番号とタイトルをつけ、1 枚毎に台紙または原稿用紙にはり、本文とは別に番号順に一括する。また、必ず本文の図・表挿入箇所を赤インクにより指示すること。
9. 引用文献は、原則として、本文の最後に著者名を ABC 順に一括し、雑誌の場合には、著者名（発行年）論文名・誌名・巻（号）：ページとし、単行本の場合は、著者名（発行年）書名（版数、ただし初版は略）. 発行所：発行地、引用ページ（p. または pp.）の順に記載する。なお、引用および注記の仕方の詳細は、日本体育学会発行、体育学研究「投稿の手引き」を参照すること。
10. すべての原稿には表題、所属、氏名の欧文を必ず添付すること。但し、原著論文については 200 語以内の欧文抄録と、その和訳を添付すること。
11. 原稿はコピーを含め、合計 3 部と原稿がセーブされたフロッピーディスク 1 枚を提出すること。また、論文内容が主として関係する研究領域と論文の分類を明記すること。
12. 本文、そのほかに使用した欧文はすべてタイプ打ちか活字を使用すること。
13. 共著の場合には、著者名とその所属を明記すること。
14. 共著者として氏名を出すものは、その論文の全般にわたり責任をもって応答できる共同研究者に限る。
15. 本紀要に掲載された論文の著作権は、近畿大学健康スポーツ教育センターに譲渡したものとする。ただし、事前に申し出があれば、筆者自身が自分の論文を利用することができる。

16. 原稿は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会に提出すること。
17. 本規程に反しているものは掲載しない。
18. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

付則：本規程は2008年4月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会内規

1. 健康スポーツ教育センター規程第7条により、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会（以下委員会）を置く。運営は本規程により行うものとする。
2. 委員会は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要<英文名>（The Research Bulletin of Health and Sports Sciences）の編集に関して次の任務にあたる。
 - (1) 編集発刊に関する一切の業務
 - (2) 寄稿された論文の審査依頼、原稿の分類および原稿掲載可否の決定
 - (3) その他、編集に関する事項
3. 委員会は健康スポーツ教育センター会議により選出された委員若干名をもって構成する。委員の任期は2ヶ年とし、再任を妨げない。
4. 委員会に委員長をおく。委員長は委員の互選により選出する。
5. 論文審査のための論文審査委員は委員会の推薦により健康スポーツ教育センター長がこれを委嘱する。
6. 論文の審査規程および編集に関する事項は委員会において別に定める。
7. 委員会は審査担当者の評定に基づいて原稿の取捨を決定する。
8. 委員会の召集、開催については委員長が行う。
9. 本規程の改定には、健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。

付則：本規程は2002年1月1日より施行する。

付則：本規程は2008年4月1日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集内規

1. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要は、年1回発行するものとしその時期は3月1日とする。
2. 本研究紀要に掲載する論文は原則として次の通りとする。
 - (1) 総説 (2) 原著論文 (3) 研究資料(報告) (4) 実践報告 (5) 研究・教育上の問題提起
 - (6) その他

3. 掲載された論文の筆頭著者には別刷り 50 部を進呈する。
4. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。
付則：本規程は 2002 年 1 月 1 日より施行する。
付則：本規程は 2008 年 4 月 1 日より施行する。

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要論文審査内規

1. 本規程は、健康スポーツ教育センター研究紀要編集委員会規程に基づくものとする。
2. 編集委員会に寄稿された原稿は、寄稿者の希望する研究領域を参考として、論文審査委員の審査を受けるものとする。
3. 寄稿者あるいは共同研究者は、その論文の審査委員になることはできない。
4. 担当論文審査委員は寄稿論文が健康スポーツ教育センター研究紀要寄稿規程に示された基準に沿っているか否かを検討し、掲載の適否を概要 3 段階によって評定し、その結果と根拠を編集委員長に報告する。
5. 論文審査の期間は原則として 3 週間以内とする。
6. 審査委員が論文審査に困難を生じた場合には審査結果の報告書に次の事項を記入し、論文受領後 1 週間以内に編集委員に送付する。
 - (1) 困難な理由
 - (2) 他に論文審査委員として適当と思われる人
 - (3) その他の意見
7. 本規程は近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要編集規程 2 の総説、原著論文、研究資料（報告）、実践報告、研究・教育上の問題提起、その他、の審査に適用する。
8. 本規程の改定には健康スポーツ教育センター会議の議決（過半数）を必要とする。
付則：本規程は 2002 年 1 月 1 日より施行する。
付則：本規程は 2008 年 4 月 1 日より施行する。

編集後記

「運動・スポーツ指導とコミュニケーション」というテーマで特集を組み、三篇の論文を寄稿して戴きました。松浪登久馬先生には体育・スポーツ史研究者の立場から、禿 正信先生には課外スポーツ活動指導者としての長年の経験から、そして津田忠雄先生にはスポーツ心理学研究者の視点からまとめて戴きました。

この平成19年度を振り返りますと、4月に二人の若い新任教員が着任され（田中ひかる先生、松浪登久馬先生）、一昨年に就任された直井愛里先生とあわせて、一気に職場が若返り新鮮な空気に包まれました。次に、5月より教員研修会がスタートし、教員の教育能力の向上および教育技法の改善に向けた取り組みが始められました。

前期授業終了後より着工される記念会館工事に備えて、7月に教員控室をクラブセンター1階に移動させ、授業用具などを別の倉庫に搬入し、9月には11号館1階の学生更衣室に新しい更衣ロッカーがたくさん設置され、記念会館なしの後期授業運営がスタートしました。その直後の9月17日（月）に療養されていた中本道昭センター長が逝去されました。

後期授業は滞りなく進み、間もなく終了します。この編集後記を書いている1月20日はセンター試験二日目です。2月半ばには記念会館の工事も終わる予定です。

八頭司義久先生が平成18年度末に定年退官され、この一年間は特任教授を務めておられましたが、いよいよ3月末に任期終了です。近畿大学を永年にわたり支えてこられた八頭司先生が職場を去られるのは私たちにとって本当にさびしいことです。

この研究紀要発行にご尽力いただいた皆様に心より御礼を申し上げます。

(熊本和正)

The Research Bulletin of Health and Sports Sciences

Vol.7 No.1 2008

CONTENTS

Obituary	Norio Takashima	1
Special Reports: Relationship Between Teaching Exercise/Sports and Communication Transition and Communications of Physical Education in Japan	Tokuma Matsunami	3
Communication and Instruction of Exercise/Sports — The Case of Extracurricular Sports —	Shosin Kamuro	9
Nonverbal Communication in the Instruction of Sports and Physical Education — Resonator Body —	Tadao Tsuda	15
Review Psychological Factors Related to the Assessment and Treatment of Chronic Lower Back Pain Patients: Review and Recommendations	Airi Naoi, Emma Grindley and Alan Nasypany	25
Materials Report of the 2 nd Public Lecture “Health and Sports Class 2006”	Ryuji Okada	37
Activity Report of Faculty Development	Kazunori Sagawa	41
Report of the 12 th European Congress of Sport Psychology	Airi Naoi	44
Report of the 5 th Symposium of International Judo Federation	Ryuji Okada	45
Report of the XI International Congress of Toxicology	Kazumasa Kumamoto	47
Report of the 2007 World Table Tennis Championship, Zagreb, HRV	Norio Takashima	48
Report of the Institute of the University Physical Education and Sports	Kazumasa Kumamoto, Ryuji Okada and Tokuma Matsunami	51
Report of the Japanese Association of University Physical Education and Sports Kinki Chapter	Kazumasa Kumamoto	54
Abstract of the Special Lecture 2007 Kinki University Public Lecture: Opening Ceremony of the Anti-Aging Center	Kazunori Sagawa	55
Annual Report of the Institute of Health and Sports Science (Jan-Dec/2007)		57

Institute of Health and Sports Science

Kinki University

Osaka, Japan

特集記事および論文の執筆者（目次順）

松 浪 登久馬 講 師
禿 正 信 准 教 授
津 田 忠 雄 准 教 授
直 井 愛 里 講 師

紀要編集委員会（五十音順）

委 員 入 川 松 博
大 島 寛（副委員長）
熊 本 和 正（委員長）
佐 川 和 則
高 島 規 郎
浜 田 吉 治 郎

近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 第7巻第1号 2008年
(通巻第7号)

平成20年3月1日 印刷

平成20年3月1日 発行

発行人 高 島 規 郎

発行所 近畿大学健康スポーツ教育センター

577-8502 大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学 管理部 用度課（出版印刷）

KINKI UNIVERSITY

3-4-1 Kowakae, Higashiosaka, Osaka 577-8502, Japan

健康スポーツ教育センター 活動報告 (2007年1月～12月)

研究活動

原著論文

- 1) Hiroshi Oshima: A Study on the Transition Defense of the Ultimate Game for Flying Disc Sports. The Research Bulletin of Health and Sports Sciences 6(1): 27-36, 2007
- 2) 津田忠雄: 自己物語への介入と「私」との関係－ミノルと父との物語－. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要. 6(1): 37-53, 2007
- 3) Naoi, A. & Ostrow, A.: The Effects of Cognitive and Relaxation Interventions on Injured Athletes' Mood and Pain during Rehabilitation. Athletic Insight : The Online Journal of Sport Psychology. Spring 2008 (In Press)
- 4) Kumamoto K, Hirai T, Kishioka S, Iwahashi H: Identification of a Radical Formed in the Reaction Mixture of Rat Brain Homogenate with a Ferrous Ion/Ascorbic Acid System Using HPLC-EPR and HPLC-EPR-MS. Free Radical Research 41(6): 650-654, Jun 2007

その他

- 1) 大島 寛: 近畿大学通信教育部の健康スポーツ科学の授業の展開について (その2) -フライングディスク競技のディスクゴルフを教材として-. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 6(1): 55-58, 2007
- 2) 佐川和則: 駅伝を通してみた大学スポーツの現状と課題. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 6(1): 3-7, 2007
- 3) 津田忠雄: 大学教育と競技スポーツを通じての教育－大学生アスリートとライフスキル教育プログラムの展開－. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 6(1): 13-25, 2007
- 4) 直井愛里: アスリートの心理的コンディショニング. 近畿大学健康スポーツ教育センター研究紀要 6(1): 9-12, 2007
- 5) 直井愛里: アスリート・コーチが必要としている心理サポートとネットワークについて. スポーツ精神医学 4:10-13, 2007.
- 6) 直井愛里: アスリートの苦悩－精神医学との関わり－. 精神科 10(2): 118-121, 2007.

学会発表

- 1) Naoi, A: The Development and Application of Goal Setting and Self-evaluation Interventions with a Division I College Volleyball Team. 12th European Congress of Sport Psychology. September 2007 (Halkidiki, Greece)
- 2) Shimowada, H., Kirime, E., Kitahata, D., Naoi, A., Okuno, Y., & Hitomi, K.: A new one-minute dementia screening test (Automated qualification of the drawing tests replaced by CPU-assisted plotting). International Psychogeriatric Association 2007 Osaka Silver Congress, Japan 14-18 October 2007.
- 3) Kumamoto K, Hirai T, Kishioka S, Iwahashi H: Identification of 1-Ethoxyethyl Radicals in the

Reaction of Ferrous Ions with Serums from Rats Exposed to Diethyl Ether. The XI International Congress of Toxicology. Montréal, Canada, July 15-19, 2007.

- 4) 直井愛里, Watson, J., Deaner, H., 佐藤雅幸 & Radebaugh, B.: 日米の学生アスリートが望むスポーツコンサルティングとソーシャルサポートについて. 日本スポーツ心理学会第34回大会. 2007年11月
- 5) 熊本和正, 平井富弘, 岸岡史郎, 岩橋秀夫: 牛腎ミクロソーム/NADPH反応溶液中のフリーラジカル生成に対するミオグロビン添加の影響. BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会, 第80回日本生化学会大会 合同大会). パシフィコ横浜, 平成19年12月11日-15日.

講演・シンポジウム・研修会など

- 1) Naoi, A: Cultural Differences in Psychological Issues and Preferences for Social Support of College Athletes in the United States and Japan. Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science. December 2007 (Hiroshima).
- 2) 直井愛里: 受傷選手に対する心理的サポート. 関西スポーツメンタルトレーニング指導士会主催スポーツメンタルトレーニング研修会. 2007年8月(大阪)
- 3) 直井愛里: プレッシャーに対処するためのメンタルトレーニング. 関西テニス協会主催第二回スポーツ医科学セミナー. 2007年10月(大阪)
- 4) 佐川和則: 健康は歩いてやってくる～高齢社会を生き抜くためのウォーキングのすすめ. 近畿大学公開講座2007 アンチエイジングセンター開設記念特別講座. 平成19年10月6日(土)(東大阪キャンパスにて)
- 5) 津田忠雄: スポーツと禁煙. 第2回日本禁煙科学会学術総会シンポジウム. 2007年12月(奈良)

社会的活動

- 1) 平成18年度第2回近畿大学公開講座「健康スポーツ教室」: 平成19年2月25日(日)午後1時30分より午後4時まで記念会館にて(卓球教室、バランスボール体操、フィットネスチェック、キッズコーナーなど)

外部資金獲得

- 1) 平成19年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(課題番号:18500519): 過剰運動時に漏出するミオグロビンにより生成する脂質由来ラジカルの検出とその同定(研究代表者 熊本和正)